

中間支援活動助成事業 実績報告

団体名	認定特定非営利活動法人 まち・コミュニケーション	代表者名	代表理事 宮定 章
事業名	<p><基本事業> 小規模ボランティア団体や NPO 団体への運営・活動への相談支援事業ー現場 伴走型中間支援 認定 NPO 法人が寄り添うー</p> <p><企画立案事業> 次なる災害へ向けて、勉強会から“NPO 組織の力を活かすプラットフォーム づくり”へ展開 ～運営課題を改善し、団体間をゆるやかに繋ぎ相談相手を 増やす～</p>		

<事業実施実績>

年 月 日	活 動 内 容
4 月 7 日	自然と共生したまちづくりへの外部者の役割・発信～インドネシア・メラ ピ山噴火災害～ プラットフォーム事例紹介者：日比野純一氏（特定非営 利活動法人エフエムわいわい理事）LINI OGVENETY 氏（神戸大学国際協力 研究科、インドネシア、ガジャマダ大学、メラピ山噴火災害研究）
4 月 14 日	糸魚川市大規模火災からの復興の現状 プラットフォーム事例紹介者：太 田 亘（糸魚川市産業部復興推進課・UR 都市再生機構）
5 月 18 日	避難所の景色（衣食住の考え）を変えよう！床に雑魚寝から、ベッドへ！ プラットフォーム事例紹介者：水谷嘉浩氏（J パックス株式会社代表取締 役、避難所・避難生活学会）
11 月 17 日	地域で支え合う社会への挑戦 プラットフォーム事例紹介者：菊池亮氏（釜 石市社会福祉協議会）、細川隼氏（一般社団法人ゴジョる）

<効果と成果>

阪神・淡路大震災から23年間、当団体が常駐で（東日本大震災や熊本地震を含め）地
域支援をしてきた中で出会った、多くの人材・ネットワークをフル活用し、新たな人材の
発掘とプラットフォームづくりを目指しました。阪神・淡路大震災から23年を経していま
すが、改めて振り返り、各自が防災力を高め、伝える人材を育てる機会となりました。

今年度、特に印象に残ったのは、留学生から、海外の防災や復興まちづくりについて紹
介してくださり、災害に立ち向かう新たな知見やプラットフォームづくりを学べたこと
です。

<収支決算書>

[基本事業]

(収入)

項 目	金額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
自己資金	1,570,782
合 計	2,070,782

(支出)

区分	項 目	金額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経 費	人件費 (職員)	1,365,000	82,494
	人件費 (アルバイト)	60,000	60,000
	旅費・交通費	45,528	45,528
	その他 (郵送費、消耗品費)	271,978	271,978
	小 計	1,742,506	460,000
間接経費 (一般管理費)		328,276	40,000
合 計		2,070,782	500,000

[企画立案事業]

(収入)

項 目	金額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
勉強会参加費	44,000
自己資金	260,044
合 計	804,044

(支出)

区分	項 目	金額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経 費	人件費 (職員)	520,800	216,756
	人件費 (アルバイト)	24,592	24,592
	旅費・交通費	191,830	191,830
	郵送費	66,822	66,822
	小 計	804,044	500,000
間接経費 (一般管理費)		0	0
合 計		804,044	500,000